

| | |
|--------------------------------------|---|
| 平成 24 年度第 1 回 医療法人社団主体会倫理委員会 会議記録の概要 | |
| 開催日時 | 平成 24 年 5 月 21 日 16 時～16 時 40 分 |
| 開催場所 | 小山田記念温泉病院第 3 会議室 |
| 出席委員 | 毛受、鈴木、北村、山中、田中、牧野、家崎、浅野、大西 (敬略称、順不同) |
| 新規研究計画の審議 | |
| 申請者 | 和田 美奈子 |
| 研究名 | 呼吸抵抗モデルによる横隔膜法を使用した呼吸機能評価の検討 |
| 研究内容 要旨 | <p>フローボリューム検査において、気管支喘息などにより呼吸抵抗が増加し呼吸流量低下を示す患者では、安静時の横隔膜の移動速度も同様に低下するであろうと予測しています。</p> <p>これら二つの評価の関連性を示した研究は目下のところ見当たらず、本研究において関連性を示すことが可能であれば、被験者の努力性や協力性に依存せず、呼吸状態を把握する事が可能となります。これはリハビリにおいて呼吸不全を伴った患者の呼吸機能評価が容易に可能となり、早期の呼吸不全患者のリハビリにおいて運動負荷量の評価や呼吸機能状態を容易に評価可能となることでリスク管理において有用と考えます。また、呼吸介助などの呼吸リハビリを行う際に呼吸機能状態を確認しながら実施できる為、介入効果をリアルタイムに確認する事が可能となり、非常に有用な評価方法となると考えます。</p> |
| 審議結果 | 差し戻し |
| 意見 | <p>説明書をわかりやすくする。</p> <p>マウスピース (3mm, 7mm, 12mm) →直径 3mm, 7mm, 12mm と訂正する。</p> <p>検査には、臨床検査技師の協力を得ることを説明文に記載する。</p> <p>研究対象者の選定 (特にタバコの喫煙率、肺疾患既往の有無など)、研究の手技の安全性、中止基準について、内科系医師の助言を必要とする。</p> |
| 新規研究計画の審議 | |
| 申請者 | 松本 周二 |
| 研究名 | 要支援、軽介護者の生活習慣が認知機能に与える影響 |
| 研究内容 要旨 | <p>当デイケア利用者のうち認知機能低下予防の観点から要支援、要介護 1、2 の認定を受けている高齢者に限定し、自宅での生活習慣を調査することにより、どのような過ごし方、生活習慣が認知機能低下につながるかを調査し、検討する。それを今後、家族等に向けた</p> |

| | |
|------|---|
| | 生活指導やリハ介入に導入していく。 |
| 審議結果 | 差し戻し |
| 意見 | 研究期間、長谷川式簡易スケールの実施期間を再検討する。 アンケート用紙の語句を訂正する(わからなくなることはあると思いますか→わからなくなることはあると思いますか) 生活習慣調査用紙の出典について記載する。 |